

形成外科ってどんな科？

形成外科 藤田 純美



形成外科常勤医師の藤田純美です。当院の形成外科常勤体制立ち上げから関わらせていただき今年度で5年目となりました。形成外科では特定の臓器を治療対象としているわけではないため、どんな治療をしているのかなかなかイメージしにくい人もいるかもしれません。今回は形成外科の具体的な診療内容をご紹介しますと思います。

<皮膚・皮下腫瘍>

皮膚にできものができている、皮膚の下にしこりが触れて気になることはありませんか？当科では粉瘤や母斑、脂肪腫などの皮膚・皮下腫瘍の切除をしています。皮膚がんを切除することもあります。手術をした方が良いかどうか治療の適応についてもご相談を承ります。



<褥瘡・難治性潰瘍>

血流が悪い傷は軟膏で治療をしてもなかなか閉じずに慢性的に潰瘍化することがあります。そのような場合はまず血流の悪い組織を取り除く必要があります。その後は必要に応じてお肉を盛り上げる治療（陰圧閉鎖療法）をしたり、縫い寄せて閉じることが難しいような傷は皮膚を移植する、お肉を移動させる（皮弁）方法などを用いて傷を閉じる治療をします。

<眼瞼下垂症>

最近まぶたが下がってきて視界が狭い、暗いと感じることはありませんか？コンタクトレンズを使用していたりお年を召されたりすると、まぶたを持ち上げる筋肉がゆるみ眼瞼下垂症になることがあります。当科では下がったまぶたを開きやすくする手術をしています。



<顔面骨骨折>

顔をぶつけた後に顔がびっくりするくらい腫れたり、大きな青あざができた時は顔の骨が折れていることがあります。顔面骨骨折は多くの場合形成外科で治療をします。手術が必要な骨折はなるべく早く手術をする必要があるため、心配な時は早めに受診してください。



<乳房再建>

乳がん治療により乳房がなくなった患者様は乳房再建により乳房の形をもう一度作ることができます。過去に乳がん手術を受けた方もこれから治療を受ける方も再建手術をすることができます。「胸を気にせず好きな服が着たい」「温泉に行きたい」、再建を望まれる理由は人それぞれです。再建について説明を聞きたいという方はぜひ外来にお越しください。

<リンパ浮腫>

乳がんや子宮がんなどの手術でリンパ節郭清をした後は腕や足に左右差のあるむくみが出ることがあります。当科ではリンパ浮腫のケアの仕方を指導するリンパ浮腫ケア外来をしています。



気になる症状、困っている症状がありましたら、ぜひ形成外科外来にお越しください。